

きずな

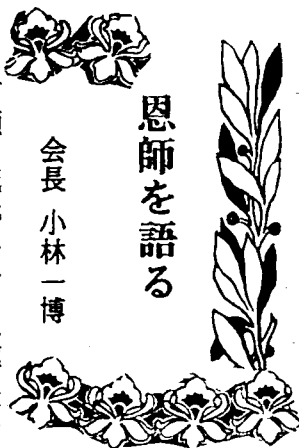
ふるさと美麻会会報

第 33 号

発行者 ふるさと美麻会
編集発行 小林 三徳
〒173-0037 東京都板橋区小茂根2-23-16
TEL 03-3568-1260

恩師を語る

会長 小林一博



百瀬 茂先生八十三歳(塩尻市在住)が私の恩師です。出会いは遡ること五十年前に中学を出て働き口が決まるまでの一年間、高校の分校で教えを頂いた先生です。横浜に就職が決まり故郷を離れてから先生とは年賀状程度の文通で時が流れました。私が仕事でメキシコ・イギリス・マレーシアと海外生活が続いた折、風習文化の違いや仕事の進捗等で悩み落ち込み、近況を手紙したのが文通の始まりでした。先生からは叱咤激励などの言葉は無く、その国の文化歴史を調べた内容やその国の優

れている点や先生が読まれた本等から感銘を受けた事柄などをこまめに書いて手紙を下さいました。それが活力となり頑張れたと感謝しております。イギリスでの仕事が終わりを掃国に際し、先生に『バックingham宮殿』の絵を贈りました。平成十五年十一月二十九日のことです。NHK第一放送で『私が一番行きたい所NO一は?』の番組に先生の投稿が採用され全国放送されました。先生は行きたい所NO一に英国のバックingham宮殿を挙げ、その理由として私と先生との出会いから始まり、私から贈られた絵を部屋に飾り眺めているうちにと締めくくられました。その後先生は投稿された四季の移り変わり、人との触れ合い、街の行事等の放送を耳にする機会があり、元気で活躍されているお姿に感激

しました。

恩師の教え子で、塩尻市の方が新潟県弥彦神社の脇で『彩色亭』という旅館を出しているから機会があったら利用してとのお誘いを受け、妻と新幹線を乗り継いで行って来ました。

弥彦神社裏手の山に登り

佐渡島を一望し、神社で身を清め恩師の教え子と一杯傾けながら夜の更けるのを忘れ四方山話に花を咲かせました。

永い年月を常に明かりを灯し続けてくださる恩師に感謝し心から先生の健康をお祈りしています。

ふるさと美麻

ゴルフ会

山梨で開催

小林一博

昨年の秋、ふるさと美麻会のゴルフ大会が大町市の日向山ゴルフ場で開催され、夜の懇親会の席で、一度は東京方

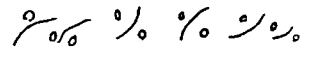
面で実施したいとの意見がありました。それを受けて幹事の佐藤壮さんが奔走され、三月十二日(月)、双方の中間点になる山梨県「春日居ゴルフクラブ」で実施することになりました。

美麻からは北沢元議長他五名、東京方面からは七名が参加し、総勢十二名での開催です。

当日は天候に恵まれず長野方面は、雪が降り慌ててスパイクタイヤに交換するなど大変だったとか。ゴルフ場も冷たい強風が吹きまくり、グリーン上のボールが動く程でした。プレーは和気あいあいのうちに終了し、宿泊所、石和温泉ホテル「石庭」へと車を走らせました。

懇親会は好プレー珍プレーの話題を肴に盛り上がり、又のお手合わせを約束して、翌朝、北と東に別れました。





隅田川・浅草で

ふる里を思う

吉田 京
千見出身



今回ご案内するこの地は私にとつて五十年も前からの縁を感じる思い出深い所である。

昭和三十年の半ば頃、月島から佃島に生徒に教えるために、勝鬨橋を渡った。この橋は一日に何回も開閉して、渡るのに時間がかかった。閉じては人や車を通し、開いては船を通す隅田川にかかった橋だ。今では隅田川に橋がいくつもかかって自由に往来ができる。勝鬨橋は開かずの橋となったが、橋の中央の繋ぎ目は水上バスで間近に見ることが出来る。水上バスは浅草の吾妻橋と浜松町の日の出棧橋を結び、約四十分程で運行している。隅田川に架かる橋は二十五程ある中の、十二橋巡りが楽しめる。

船から川の兩岸を眺めると建ち並ぶビルや公園、築地市場等が印象的で、兩岸には遊

歩道が整備されウォーキングする人、犬を連れて散歩する姿が見られる。春の桜、夏の花火大会や納涼船などで賑わうという。

四月八日、

美麻会は日の出棧橋で「ゆりかもめ」や「レインボーブリッジ」「東京タワー」を眺め乗船前の一時を過ごす。大島や御蔵島に行くときに乗船した竹芝棧橋も近い。旧芝離宮の庭園も通路から見られた。浜松町駅は東京モノレールが発着して人々がうごめいていた。世界貿易センタービルの展望台からは東京を一望して富士山も眺められる。日本で最初に建てられた高層ビルである。

水上バスからは全国各地から食材が集まる築地市場、開かずの勝鬨橋、東西線の通る永代橋、両国橋を通過すると蔵前国技館も姿を見せる。

川の兩岸は桜で彩られ観光客で賑わっている。隅田川の花火大会の会場に近づく頃に駒形橋、吾妻橋をくぐって桜吹雪の浅草に到着した。

松屋デパートの地下で思いの桜並木の下で昼食とする。散り行く桜の花びらを楽しむ土手に登って対岸のアサヒ

ビールのシンボルタワーを眺め向島方面を見渡す。ある人が言った。「春のうららの隅田川：あの頃の風情は見られなくなつた」と。「のほり下りの船人が」と詠われた頃の面影はうすく、桜の木の下で酒盛りをしている。若人や家族で賑わっていた。以前は魚も住めないような汚れた隅田川の水も見事に甦り、きれいになって人々を楽しませて

いる。

花川戸公園を通過して、江戸幕府時代から栄えている浅草寺にお参りする。

花まつりの日ということもあって人の波の中を仲見世通りをそぞろ歩く。商店街の両側に並ぶ和菓子屋、昔ながらの雑貨屋、古道具屋が訪れる度に心やすまる思いにさせられる。

大きな提灯の雷門で解散した。

参加者十七人の方々がそれぞれの思いを抱いてまた会える時を誓った。

懐かしい道を辿り思い出すことが多かった。私が勤め始めた昭和四十年代、友人のお母さんに案内されて浅草によく行った。

五月の三社祭、七月のほおずき市、十一月の酉の市、十

二月の歳の市や羽子板市などの行事を楽しみ、訪れる度に釜めし「春」に足を運んだ。

仲間と一緒に素朴なビヤホール「神谷バー」でデンキブランを、洋酒の発祥地で飲んだ味を思い出す。天ぶらやさんも多い、あんみつや田舎しるこの老舗「梅園」の味も忘れられない。靴や鞆の革製品も安く店も多く、買いあさった。浅草はいつ行っても古き良き時代の情緒が味わえる。

東京に住んで四、五十年。

新しい時代へと変貌を見せる中にも昔を忍ぶことの出来る此の地は、私にとつて落ち着く場所であり街の風情に心がひかれ、懐かしい所だ。

大町の岳人、百瀬慎太郎氏の「山を思えば人恋し、人を思えば山恋し」の言葉が浮かぶ。「ふる里は遠きにありて思うもの」今日一日、皆さんとご一緒し、懐かしい話し言葉に心が熱くなり、かけ巡った美麻を思うことしきりであった。



ふるさと美麻」を

心に

隅田川・浅草見学

諸星美恵子
湯の海出身

昨年十一月頃、会長小林博さんから第二回目親睦会のご案内を頂く。

「四月八日（日）隅田川下り」と浅草を尋ねて」と。

以前成田山参りの掃り道、浅草寺・仲見世通り・雷門を経て隅田川を吾妻橋から日の出桟橋まで水上バス下りをした。今回は廻行、興味が湧く。年賀状で申し込み、行事担当の小林三郎さんから今年も孫も参加しますと返信をいただく。

当日四月八日は統一地方選挙で投票を済ませ、京浜急行で品川を経て山手線で浜松町駅下車。十時集合なのに早く着く。もっと早い人もいて東京タワー、モノレール発着場確認等達者である。

今回参加の小林とよ子さんが、買い物に出掛けるお隣の

加藤さんの奥さんを連れて来ちゃったと何げなく言われ三人で笑う。

定刻前に全員集合。

挨拶によると、参加出来ないと立ち会いで、参加出来ないとのこと、種山弘（幹事）さんさずな編集長も欠席とのこと残念。参加者名簿によると、第1回に引き続きの参加者は八名、初参加者九名、内子供一名で合計十七名であった。十五名以上は団体扱いで、割り引きがあり、乗船券は七百円であった。

案内役担当は千見出身の吉田京（みやこ）さん。

自己紹介によると、小林三郎さんのお孫さんは小学4年カナエさん、新参加の皆さんのお顔を覚えるだけで精一杯だった。

吉田さんがコース、行程のあらすじ説明、「要点」は要所、要所で説明とのこと。

センタービルの中を通り旧芝離宮恩賜庭園を下に見ながら日の出桟橋で予定通り乗船する。

最初の橋は有名な勝鬃橋、佃大橋、中央大橋、永代橋、隅田川大橋、清洲橋、新大橋、両国橋、蔵前橋、靛橋、駒形橋、吾妻橋「十二橋くぐり」

の約四十分の船旅である。どの橋にも名に相応しい意味や歴史がある。

隅田川は、流れも穏やかで川底が透けて見えた。兩岸に林立したビル群、その裾野に桜並木が続くが、花見には少し遅い感あり。「春のうららの隅田川のような風情はないネ！」と隣人は言ったが、それなりの美しさはあった。

想い出が心に浮かぶ。国民学校三年の遠足は犀川だった。初めて見た広くて大きな川に圧倒された。掃りに担任の丸山三郎先生の実家で御馳走になった柿の味が忘れられない。

下船して、浅草松屋の「デパ地下」で昼飯を調達してから墨田公園を散策。公園は桜の木が主役。ここの桜の木は若木、もう葉桜に近い木、満開の木と種類が多く、色はピンク、ホワイトなどバランスよく工夫が見られた。

国民学校三、四年生の頃春の遠足は木崎の夏期大学だった。桜の木が多くて背が高く、満開の桜の美しさに夢の世界を味わった。桜を見る度

にこのときの事を思い出す。

公園に敷物を広げ昼食。珍味は分け合って戴き楽しかった。吉田さんがふるさと産の「まくわ瓜」の粕漬をくださった。年配者には特に好評であった。昼食の後片付け、美麻生まれは「もったいない」を心得ていて残飯を出さない。

しばし自由行動となる。遊園地がありカナエちゃんは楽しんで遊んでいる。もう一度隅田川をのぞく。有名な「隅田川花火」の打ちあげ場所はの上流にあるようだ。集合して「浅草寺」を目指して出発。「二天門」を通り抜けて浅草神社を右手に見て浅草寺に到着する。

※ 浅草寺の寺伝等についての説明は紙面の都合で割愛させて頂きました。※

浅草は多彩な年中行事で人々を引き付ける。

当日はお釈迦様の誕生日、花まつりが日曜日と重なり、広い境内も出店や甘茶のふるまい等で混雑している。

浅草寺は坂東（関東）三十

三方所観音霊場十三番札所で特に賑わう寺だ。

参加者全員の記念写真を撮ってから、外国人観光客も多く混雑している門前仲見世通りを歩き終着地「雷門」に到着、解散となった。

「ふるさと美麻会」の企画で無事目的が達成出来たことに感謝しながら、メトロ銀座線で帰途についた。

【今日の探訪で思ったこと】

・ 集合場所の設定が良く迷わずに参加出来ました。

・ コースも所要時間もよく指示も適切でした。

・ 企画者の吉田さんは、細心の気配り目配りで良く誘導された。ふるさとから情報や珍味等を取り寄せ配布された心遣いに感謝しています。

・ 昨年の案内役担当の種山昭治さんは大塚〜早稲田間を計画して都電荒川線を完結したいと意欲的に語られた。
・ 楽しみにしています。

・ 青貝出身の北沢清子さん息子さんと参加。

・ 二重出身の参加者が多く、水上神社のお祭りの話で盛り上がる。

・ お囃子の笛や鼓の音、集落ごとに競い舞台（山車）に飾った木偶人形。

・ 夜祭りで四台の（山車）の揺れる提灯の美しさに見とれたこと等等。

・ 新参加の方から観音霊場巡りの話があった。

・ 今年の参加最高年齢は女性八十二歳、男性七十九歳次回にもお会いしたい。

・ 二回目の『わたしの街案内します』も無事終わった。

・ リポーターではないが見たことを感じたままに書いて見ました。

・ 今年も念願を叶えられた事を喜び、お礼を申し上げ、心癒すこの会の発展と継続を願っています。

・ 諸星美恵子（旧姓小林）



伝言板

ふるさと会の

総会に向けて

十一月十日（土）開催の『第十六回ふるさと美麻会』総会に向けて役員会を、七月二十二日に会場となる上野『ホテル鷗外荘水月』で開きました。

楽しい総会にするために会員の方々の一人でも多いご参加をと熱い話し合いが続きました。

総会の詳しいお知らせは後日になります。皆さん是非ご出席下さい。

あとがき



※温泉郷で開かれた同級会で帰省しました。

・ ふるりの境界の標識は、美麻村の文字が消え大町市に変わっていました。……

・ さざ波のたつ田圃で苗が揺れていた。長閑で懐かしい

風景に見入りました。

・ クラスメイトが語りました。夜道を歩けば蛍がぶつかったのに、今は姿が見えない……と

・ 坂の途中で「ふきっ葉」を丸めて湧き水を飲み、眼前に広がるアルプスの美しさと大町平の広さに目を見張った頓坂が屋根で覆われてしまい、寂しかったなどと言えば、生活の実態を知らないよそ者の戯言と一喝されてしまうのだろうか。

・ カッコウや鶯の鳴き声は嬉しかったが、期待していたホトトギスの声を聞かれなかったのは残念だった。

※ 最近はずくナシになって編集も手間取り、やっと33号をお届け出来ます。

会報は年2回の発行予定です。今年度中に34号を発行したいと考えています。気軽に原稿をお寄せ下さいますようお願いいたします。

